

「会員短信 21」

「滑稽俳句と川柳」

横山洋子

藤枝川柳番茶会で川柳を嗜んでいた私と俳句を結びつけてくれたもの、それは『八木健の川柳アート』（アトラス出版）という本でした。著者の八木健氏とは高校の同級生でしたが、五十数年お会いしていませんでした。「俳句もやらない?」「えっ、俳句!」。青天の霹靂。メールを使っての遠隔指導が始まり、懇切丁寧な俳句講座にすっかり魅了され、気がつけば滑稽俳句を楽しんでいました。川柳と滑稽俳句には「笑い」「可笑しさ」という共通点のあることも幸いでした。

では、川柳と滑稽俳句の違いは何でしょう。八木会長は前述の著書の中で、「川柳は言葉のレントゲン写真。俳句は言葉のスナップ写真」と定義されています。なるほどと思うのですが、いざ俳句になると私にとっては難しい定義です。そこで違いに拘らず同じ土俵で作句した方が、川柳も滑稽俳句も気楽に続けられると考え、①可笑しさ、②発見、③心の三点があることを心がけて詠むことにしています。

今は「作る事」「続ける事」を座右の銘に、滑稽俳句協会報や添削を頼りとしつつ、川柳も俳句も楽しんでいます。お蔭さまで「俳友（俳句の友）」「川友（川柳の友）」が増え、ボーッと生きている時間が少なくなり、感謝感謝です。

滑稽俳句	なぎ倒す技は一流春一番 里芋の親に子どもがしがみつく
川柳	井戸水で育ったわたし水を買う 高齢者疑心暗鬼のキャッシュレス